

令和 5 年 4 月 25 日現在

機関番号：37129

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K09901

研究課題名(和文)患者・要介護高齢者の口腔機能管理を促進する歯科・看護・介護連携システムの構築

研究課題名(英文) Development a dental, nursing, and nursing care system to promote the management of oral function in patients and elderly people requiring nursing care

研究代表者

晴佐久 悟 (Satoru, Haresaku)

福岡看護大学・看護学部・教授

研究者番号：10330961

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：病院勤務看護師を対象に、口腔アセスメント、歯科照会に関する態度、自信、実施状況に関する調査から、看護師の患者への口腔アセスメント・歯科照会実施が十分に普及しておらず、看護師の口腔アセスメントの実施と歯科照会実施が関連することが明らかになった。看護系大学の口腔アセスメントの教育状況を調査した結果、口腔アセスメント教育時間は看護分野での大部分が2時間未満、口腔アセスメントツール使用に関する教育は15%未満であった。看護学生を対象とした口腔アセスメント教育の結果、口腔アセスメントに関する学生の態度や自信だけでなく、口腔アセスメント能力、自己口腔アセスメント能力も向上した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

病院看護師の口腔アセスメントの実施の改善のために、さらなる教育の必要があること、その改善により歯科照会が促進され、看護・歯科の連携が促進され、連携システムの構築される可能性が示唆された。看護学生教育では、口腔アセスメントに関する教育が不十分であり、それが看護師の口腔アセスメントの実施が不十分であることに影響することが示唆された。また、看護学生を対象として口腔アセスメントに関する教育を実施し、口腔アセスメントの意識・認識・能力が改善されたことから、資格取得後、口腔アセスメント・歯科照会を積極的に実施し、看護・歯科の連携が促進される可能性がある。その連携が国民の口腔保健の向上に繋がると考えられる。

研究成果の概要(英文)：A survey of hospital-based nurses on their attitudes, confidence and implementation of oral assessment and dental referral showed that the performance of oral assessment and dental referral was not developed sufficiently in the hospital, and that nurses' implementation of oral assessment was associated with the implementation of dental referral.

A survey of oral assessment education in nursing schools showed that the majority of nursing fields had less than two hours of oral assessment education and less than 15% had education on the use of oral assessment tools.

Education on oral assessment for nursing students resulted in improved not only the students' attitudes and confidence regarding oral assessment but also their oral assessment abilities and self-oral assessment performance.

研究分野：多職種連携教育

キーワード：口腔アセスメント 口腔ケア 多職種連携 看護教育 看護師 看護学生

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

口腔ケアにより、誤嚥性肺炎や人工呼吸関連肺炎 (VAP) を予防し、加えて、口腔疾患予防や口腔機能の維持が、認知症予防、寿命、および健康寿命に関連性があると報告されている^{1,2)}。従って、フレイル予防、QOL の向上、および健康寿命の延伸のために、口腔機能管理を含めた歯科医療サービスを国民に適切に提供する必要がある。

しかしながら、歯科診療所に通院が困難な長期入院患者や要介護高齢者に対し、歯科医療サービスの必要性判断や提供は困難である。厚生労働省の調査によると、2012 年の診療報酬改定において周術期の口腔機能管理加算が導入されたが、歯科標榜がない病院において口腔機能管理を実施しているのは 6.7% のみであったとの報告がある。このことから、多くの入院患者や要介護高齢者が必要な歯科医療サービスの提供を受けておらず、高齢化や高齢者の歯科疾患の増加から鑑みて、この問題は将来さらに深刻になることが予測される。

この問題の原因の 1 つとして、日常のケアを実施している看護師や介護士が、口腔機能管理の重要性を理解しておらず、歯科医療サービスの必要性の有無をアセスメントできないことがあげられる。看護教育では、口腔アセスメントは、口腔ケアと分離して教育されている。また、歯科照会の必要性を判断する教育プログラムは看護教育にない。

そこで、日常のケアを担当する看護師や介護士が口腔アセスメントを実施し、歯科照会の必要性の有無を判定し、主治医等や施設管理者等と歯科照会について相談することは、「歯科医療従事者」と「歯科医療サービスが必要な患者・要介護高齢者」を繋ぐ重要な架け橋になり、歯科・看護・介護連携システムの構築になると考えられる。

看護師や介護士等の他職種が口腔をアセスメントし、歯科受診必要性の有無を判定するツールが開発されている^{3,4)}。しかしながら、病院・施設に勤務する看護師、介護士を対象とした研究によると、51% の看護師、63% の介護士しか口腔アセスメントを実施しておらず、口腔アセスメントツールを使用している者はわずか 5% 未満であった^{5,6)}。

2. 研究の目的

- 1) 看護師・介護士による口腔アセスメント・口腔ケアの実施状況に加え、歯科照会の状況、それらを実施する上での問題点を明らかにする。
- 2) 看護学生教育における口腔アセスメント教育の実態を調査し、問題点を明らかにする。
- 3) 新しく歯科照会の必要性判定を含めた口腔アセスメント教育プログラムを開発し、看護学生の口腔アセスメントの意識、態度、および能力への効果を確認する。

3. 研究の方法

1) 2018 年 8 月から 9 月にかけて、福岡県内の 5 つの病院に勤務する看護師を対象とし調査を実施した。調査看護大学には、看護研究や看護学生の教育のために 28 の連携病院があり、その中で、病棟数が多いという理由で 5 つの総合病院 (A、B、C、D、E) が選ばれた。また、A 病院は歯科診療科を持つ唯一の病院であったため、選ばれた。A 病院は国立病院機構に加盟しており、中堅都市の中心部に位置していた。B 病院は市中病院であり、県庁所在地の中心部に位置していた。C、D、E 病院は、農村部に位置していた。A、B、C、D、E 病院の病床数はそれぞれ 591、204、402、182、181 であった。C 病院の重症心身障害者病棟 (160 床) に勤務する看護師は、その特殊な臨床状況のため除外された。それ以外の看護師は本調査の対象となった。

質問票の項目は、看護職者が口腔アセスメントを行う際の実践、態度、自信を調査するために使用された。本研究に先立ち、看護大学に勤務し、病院での勤務経験が 5 年以上ある看護師 10 名を対象に質問票の予備調査を行ったが、本研究の対象には含まれていない。収集した社会人口統計学的情報は、性別、年齢層、看護師としての勤務経験期間 (年数)、勤務先である。職場は、a) 周術期病棟、b) 一般病棟、c) 外来部門、d) その他の病棟 (透析室、精神病棟、結核病棟、感染症病棟を含む) の 4 つに分類した。

口腔アセスメントと歯科紹介に関する質問は、口腔アセスメントツールに関する知識 (2 項目)、口腔アセスメントと歯科紹介に関する意識 (2 項目)、入院患者に対する口腔アセスメントの実施 (8 項目)、入院患者に対する歯科紹介の実施 (8 項目) の 4 項目から構成されている。口腔アセスメントツールの使用に関する看護師の知識を評価するため、日本国内で看護師が主に使用している代表的な口腔アセスメントツール 2 種 (OHAT (Oral Health Assessment Tool)、OAG (Oral Assessment Guide)) の使用方法を知っているかどうかを質問した。口腔アセスメントと歯科紹介の実施に関する看護師の意識を評価するために、a) 看護師は口腔ケアのために口腔アセスメントを行うべき、b) 看護師は患者のために歯科紹介を行うべき、と感じるかどうかを質問した。歯科紹介に対する考え方は、4 段階評価 (「強くそう思う」「ややそう思う」「ややそう思わない」「強くそう思わない」) を使用した。入院患者に対する口腔アセスメントの実施状況の評価するため、看護師は、アセスメントカテゴリーごとに、口腔アセスメントを実施した入院患者の割合を尋ねられた。評価項目は、OHAT に基づいて定義され、以下の通りである： a) 口唇 (腫脹、出血、潰瘍) b) 舌および舌苔、c) 歯肉および口腔粘膜 (腫脹、出血、潰瘍) d) 唾液 (質および量) e) 現存歯 (う蝕または歯の破折) f) 可撤式義歯 (破損部分) g) 口腔内の清潔さ (食物残渣、歯石、歯垢) h) 口腔痛 (痛みの言語および/または非言語サイン)、非口腔専門家

(看護師)による OHAT の口腔カテゴリーの検査は、以前の研究で有効かつ信頼できることが示されている[9]。その割合は、3つのカテゴリー(「10%以下」、「11~49%」、「50%以上」)に分けられた。患者への歯科紹介の実施を評価するため、看護師は、各評価項目(口唇・舌・舌苔、歯肉・口腔粘膜、唾液、残存歯、可撤式義歯、口腔清掃、口腔疼痛)において、前3カ月以内に歯科受診を勧めた入院患者の人数を尋ねた。評価ツールの使用方法に関する知識、口腔アセスメントと歯科紹介に対する考え方、入院患者に対する口腔アセスメントの実施状況、入院患者に対する歯科紹介の実施状況について、病棟・病院間の差異をカイ二乗検定で検討した。ロジスティック回帰分析を用いて、その歯科紹介の実施に関連する因子を特定した。従属変数は、各評価項目における「看護師の過去3ヶ月以内の入院患者への歯科紹介実施」とし、2変数(看護師が過去3ヶ月以内に複数の入院患者に歯科受診を勧めた=1、決して勧めない=0)に分けた。独立変数は、性別、年齢層、看護師としての勤務経験期間、病棟、病院、口腔アセスメントと歯科紹介に関する知識・態度、各評価項目における口腔アセスメント実施とした。

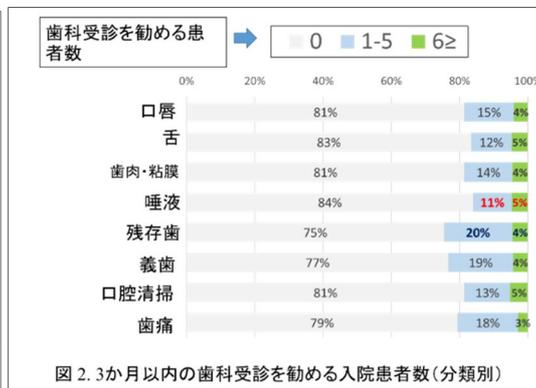
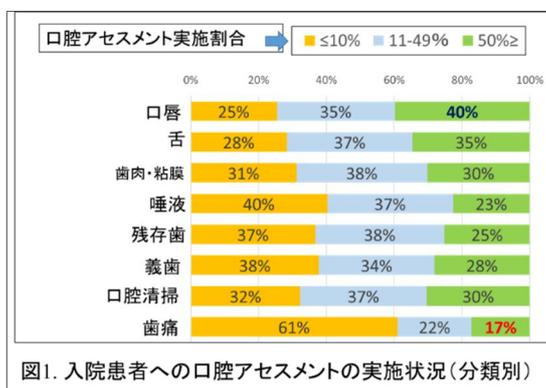
2) 2022年5月11日から7月10日にかけて、看護学士課程を有する4年制看護大学の基礎・成人・老年・在宅看護分野の口腔ケア教育担当教員を対象に、自記式質問紙による全国横断調査を実施した。これらの分野は、看護学生に成人・高齢患者の口腔アセスメントや健康管理の方法を教えることが重要な分野と考えられるため、対象として選択された。質問票4部、返信用封筒4枚を4年制看護大学長全員に郵送した。4年制看護大学の学長には、質問紙用紙4部と返信用封筒4枚を郵送し、4つの看護分野の各長に質問紙用紙を送付するよう依頼した。その際、口腔ケア評価・教育担当の教員(以下、口腔ケア教育担当者)がいるかどうかを尋ねた。教育担当者がある場合は、教育担当者に質問紙に回答してもらい、添付の返信用封筒で返送してもらった。教育担当者がいない場合は、「私の分野には口腔ケア教育を担当者はいない」を選択し、同封の返信用封筒に記入せずに返送してもらった。

質問票は、看護学生の口腔ケアに関する知識、態度、自信に対する多職種による口腔ケア教育の効果を評価するために使用された既存の質問票を利用した。さらに、看護大学と歯学部にも勤務する歯科医師2名にも質問票の内容を確認した。各領域の Cronbach alpha 値は 0.639 から 0.760 の範囲であった。質問項目は、口腔ケア教育としての実務経験年数、口腔アセスメント教育、講義での口腔ケア教育、口腔ケア教育実習、口腔ケア教育人材に分けられた。それぞれ看護分野での口腔アセスメント教育に何時間費やしたか、口腔アセスメントツールの使用状況を評価した。口腔アセスメントの実施の違いを比較するために、カイ二乗検定を使用した。

3) 某看護大学1年生112人を対象に2018年5月に歯科医師による1.5時間の口腔アセスメント講義および口腔セルフチェックの演習、同年10月に歯科および看護教職員による1時間の口腔アセスメント相互実習を実施した。口腔アセスメントに関する意識・自信・セルフ実施状況の変化を確認するための質問紙調査、および、口腔アセスメント能力を評価するためのテストをプログラム前後に実施した。テストは口腔画像8枚を液晶プロジェクターで30秒ずつ投影し、8項目のカテゴリー、歯科受診必要性の有無を判定させた。意識・自信に関する質問項目の回答肢はスコア化(1~5点)を行い、テストでは8項目のカテゴリースコア、受診の有無が歯科医師の判定と一致した場合加点とし、その合計点(0~9点)を算出した。プログラム前後の点数を Wilcoxon の符号付順位検定により比較し、プログラム前後の1週間のセルフア実施回数分布をカイ二乗検定により比較した。

4. 研究成果

1) 合計757名(82.4%)の看護師(男性82名、女性675名)の回答が得られた。口腔アセスメント8項目のそれぞれについて、16.2~41.2%の看護師が入院患者の50%以上に口腔アセスメントを実施し(図1)、20.3~29.9%が過去3ヶ月以内に複数の入院患者に歯科受診を勧めたことがあった(図2)。



口腔内評価の実施と周術期病棟では、口腔内疼痛を除くすべての評価カテゴリーにおいて、歯科紹介の実施と有意に関連していた($P < 0.05$)。B病院は、歯肉・口腔粘膜、在歯、取り外し

可能な義歯、口腔内の清潔さ、口腔内の痛みなど、多くの評価項目での実施と関連する負の独立変数であった ($P < 0.05$)。看護師の OAG の使用に関する知識は、舌と舌苔の実施と有意に関連した ($P = 0.017$)。看護師の OHAT の使用に関する知識は、可撤式義歯の実施と有意に関連した ($P = 0.023$)。また、年齢層、性別、病院 C などの他の変数も、実施と有意に関連していた ($P < 0.05$)。

口腔アセスメントの実施と歯科紹介は、病院内で十分に展開されていなかった。このため、口腔保健医療従事者は、看護師による歯科紹介を促進するために、アセスメントツールの使用を含む看護師への口腔アセスメント教育を支援する必要がある。本結果は、看護師による歯科紹介の推進と、口腔保健医療従事者による入院患者の口腔ケアに寄与するものと考えられる。

2) アンケート用紙は 311 枚 (26%) 返送され、そのうち 196 枚 (63%) は口腔ケア教育担当者が記入した。看護分野において、口腔アセスメント教育に何時間費やしているかという質問に対して、「なし」が 5.1%、「1 時間未満 (なし以外)」が 35.2%、「1~2 時間」が 31.1%、残りの「2 時間以上」が 28.5%であった。回答者のうち、口腔アセスメントツールの使用法を教えているのは 24.5%、口腔アセスメントツール (OHAT) の使用法を教えているのは 14.3%、改訂版口腔アセスメントガイド (ROAG) を含む口腔アセスメントガイド (OAG) の使用法を教えているのは 12.8%に留まりました。OAG の使用方法については、看護分野間で大きな違いが見られた。

本研究により、日本の看護大学における口腔アセスメントと健康管理教育に関連する問題が明らかになった。そのためには、口腔ケア専門職によるサポートが必要である。

3) 101 人 (90.2%) が全てのプログラム、調査に参加し、88.3%が女性、96.4%が 20 歳未満であった。口腔アセスメントに関する意識では 8 項目 (表 2)、自信では全ての項目 (表 3) に有意に改善が認められた。

表2 介入前後の口腔アセスメントに関する意識スコア (1-5) *の比較

	ベースライン (平均値±SD)**	介入後 (平均値±SD)**	P値***
1)看護師は、お口の清掃状態を評価(アセスメント)できる。	3.57±0.95	4.12±0.91	0.000
2)看護師は、むし歯の有無を評価(アセスメント)できる。	3.00±1.00	4.04±0.85	0.000
3)看護師は、歯周病の有無を評価(アセスメント)できる。	3.19±1.00	4.09±0.85	0.000
4)看護師は、口腔の癌(がん)の有無を評価(アセスメント)できる。	3.05±1.10	3.98±0.95	0.000
5)看護師は、適切な口腔ケアを実施するために、口腔の評価(アセスメント)を実施すべきである。	4.25±0.77	4.44±0.77	0.037
6)看護師は、患者の口腔の評価(アセスメント)を実施し、主治医と相談し、歯科を紹介することを促すべきである。	4.10±0.85	4.44±0.70	0.001
7)私は、自分自身の口腔の評価(アセスメント)を毎日実施したい。	3.50±0.92	3.70±1.08	0.054
8)私は、看護師になったら、担当する患者に口腔の評価(アセスメント)を実施したい。	3.84±0.95	4.00±1.04	0.130
9)私は、看護師になったら、担当する患者の口腔の評価(アセスメント)を実施し、口腔に問題があれば、歯科への照会を実施したい。	4.05±0.94	4.37±0.86	0.001
口腔アセスメントに関する態度合計	32.50±5.54	37.17±5.70	0.000

*:スコア1=全く思わない、スコア2=あまり思わない、スコア3=どちらでもない、スコア4=まあまあ思う、スコア5=とても思う。
:標準偏差、*:Wilcoxon signed-rank test

表3 介入前後の口腔アセスメント実施に関する自信スコア (1-5) *の比較

	ベースライン (平均値±SD)**	介入後 (平均値±SD)**	P値***
あなたは、口腔を評価(アセスメント)することについて、どれくらい自信がありますか？			
1)口唇(くちびる)の状態(腫れ、出血、潰瘍など)	2.75±0.98	3.93±0.98	0.000
2)舌、舌の苔	2.43±0.96	3.77±1.03	0.000
3)歯ぐき、口の中の粘膜(腫れ、出血、潰瘍など)	2.40±0.92	3.80±1.01	0.000
4)唾液(だえき)の質、量	2.23±1.01	3.56±1.13	0.000
5)歯の状況(むし歯、欠損の部分など)	2.50±1.02	3.68±1.05	0.000
6)入れ歯の状況(入れ歯の破折など)	2.70±1.45	4.10±0.96	0.000
7)お口の清掃状態(食べ物の残りがす、歯石、歯垢の状態)	2.53±0.97	3.81±0.94	0.000
8)歯の痛み(顔の表情、言動、身体的な症状から)	2.68±1.25	3.84±1.08	0.000
1~8)を判定し、歯科への照会の必要性を判定する。	2.18±0.96	3.75±1.08	0.000
口腔アセスメント実施に関する自信度合計	22.09±7.32	34.25±7.21	0.000

*:スコア1=全く自信がない、スコア2=あまり自信がない、スコア3=少し自信がある、スコア4=まあまあ自信がある、スコア5=とても自信がある。
:標準偏差、*:Wilcoxon signed-rank test

アセスメント能力テストでは、実施前の 6.8 点から実施後 7.9 点まで有意に増加した (表 4、 $P < 0.001$)。セルフ実施状況では、毎日自分の口腔アセスメントを実施すると回答した者の割合が、実施前 15.8%から実施後 32.7%に増加した (表 5、 $P < 0.001$)。

表4 口腔アセスメントテストの正答合計スコア (0-9) *の比較

	判定試験① (平均値 ±SD)**	判定試験② (平均値 ±SD)**	判定試験③ (平均値 ±SD)**	P-value**	P-value***
正答合計スコア (0-9)	6.80±1.33	6.96±1.38	7.88±1.01	0.414	0.000

** 標準偏差
**:判定試験① vs 判定試験②, Wilcoxon signed-rank test
***:判定試験① vs 判定試験③, Wilcoxon signed-rank test

表5 介入前後のセルフ口腔アセスメントの実施人数 (%)の比較

	ベースライン n (%)	介入後 n (%)	P値*
あなたは鏡で自分自身の口腔の評価(チェック)をしていますか？			
ほとんどない	8 (7.9%)	6 (5.9%)	
口腔内に異常を感じた時	56 (55.4%)	36 (35.6%)	
週1~3回	16 (15.8%)	15 (14.9%)	0.012
週4~6回	5 (5.0%)	11 (10.9%)	
毎日	16 (15.8%)	33 (32.7%)	

*:χ2検定

以上の結果から、今回導入した歯科・看護共同実施による口腔アセスメント教育プログラムは、看護学生の口腔アセスメントに関する意識・自信・能力・セルフ実施を改善することができた。教育を受けた看護学生は資格取得後、口腔アセスメント・歯科照会を積極的に実施し、看護・歯科の連携が促進される可能性がある。その連携が国民の口腔保健の向上に繋がると考えられる。

<参考文献>

- 1)van der Maarel-Wierink CD, Vanobbergen JN, Bronkhorst EM, et al, Oral health care and aspiration pneumonia in frail older people: a systematic literature review, Gerodontology 30, 3-9, 2013.
- 2)Matsuyama Y, Aida J, Watt RG,et al, Dental Status and Compression of Life Expectancy with Disability, J Dent Res 96, 1006-13, 2017.
- 3) Chalmers JM, King PL, Spencer AJ, et al, The oral health assessment tool -validity and reliability-,Aust Dent J 50, 191-199, 2005.
- 4)Tsukada S, Ito K, Stegaroiu R, et al, An oral health and function screening tool for nursing personnel of long-term care facilities to identify the need for dentist referral without preliminary training, Gerodontology 34, 232-239, 2017.
- 5) Haresaku Satoru, Aoki Hisae, Monji Mayumi, et al, The performance of oral health checkups for elderly patients by health care workers in a hospital,口腔衛生学会雑誌 67, 112, 2017.
- 6) Haresaku S, Aoki H, Makino M, et al, The practices, attitudes, and confidence of nurses in the performance of oral health checkups for elderly patients in a Japanese hospital. Oral Health Prev Dent 16, 517-524, 2018.

Chalmers JM, King PL, Spencer AJ, Wright FAC, Carter KD. The oral health assessment tool-validity and reliability. Aust Dent J 50, 191-9, 2005.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Haresaku Satoru, Miyoshi Maki, Kubota Keiko, Aoki Hisae, Kajiwara Emi, Monji Mayumi, Naito Toru	4. 巻 6
2. 論文標題 Effect of interprofessional education on oral assessment performance of nursing students	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clinical and Experimental Dental Research	6. 最初と最後の頁 51～58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/cre2.248	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Haresaku Satoru, Uchida Souhei, Aoki Hisae, Akinaga Kazuyuki, Yoshida Rie, Kubota Keiko, Naito Toru	4. 巻 20
2. 論文標題 Factors associated with nurses' performance of oral assessments and dental referrals for hospital inpatients	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Oral Health	6. 最初と最後の頁 68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12903-020-1058-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 晴佐久 悟, 吉田 理恵, 秋永 和之, 内田 荘平, 窪田 恵子, 荒川 浩久, 眞木 吉信	4. 巻 68
2. 論文標題 成人・高齢者へのう蝕予防対策・フッ化物利用に関する病院ヘルスケアスタッフの知識、意識および実施の状況	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 口腔衛生学会雑誌	6. 最初と最後の頁 219-230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Haresaku Satoru, Kubota Keiko, Miyoshi Maki, Obuse Mika, Aoki Hisae, Nakashima Fuyuko, Muramatsu Masumi, Maeda Hitomi, Uchida Souhei, Miyazono Mami, Iino Hidechika, Naito Toru	4. 巻 in press
2. 論文標題 A Survey of Oral Assessment and Healthcare Education at Nursing Schools in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Dental Journal	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.identj.2022.09.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 窪田 恵子、晴佐久 悟、飯野 英親、青木 久恵、中島 富有子、内田 荘平、宮園 真美、秋永 和之
2. 発表標題 アフターコロナにおける看護基礎教育課程の口腔ケア教育・研究を考える
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Haresaku Satoru, Souhei Uchida, Hisae Aoki, Akinaga Kazuyuki, Rie Yoshida, Keiko Kubota, Fuyuko Nakashima, Emi Kajiwara, Mayumi Monji, Maki Miyoshi, Yayoi Hara, Toru Naito
2. 発表標題 Nurses' Performance Regarding Oral Assessment and Dental Referral for Inpatients in Hospitals
3. 学会等名 第68回日本口腔衛生学会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 晴佐久 悟、窪田 恵子、寒水 章納、角森 輝美、三好 麻紀、梶原 江美
2. 発表標題 看護学生を対象とした口腔アセスメント教育プログラムの効果
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 晴佐久 悟
2. 発表標題 すべての成人・高齢者へのフッ化物応用 成人・高齢者へのフッ化物応用を推進する多職種連携
3. 学会等名 第67回日本口腔衛生学会・総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 晴佐久 悟, 窪田 恵子, 寒水 章納, 角森 輝美, 三好 麻紀, 梶原 江美
2. 発表標題 看護学生の入学時の口腔アセスメントに関する意識・自信・セルフ実施状況
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原 やよい, 中島 富有子, 晴佐久 悟, 窪田 恵子, 青木 久恵, 門司 真由美, 三好 麻紀, 吉田 理恵
2. 発表標題 精神障がい者の歯科受診を阻害する要因
3. 学会等名 第45回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 窪田恵子、晴佐久悟、青木久恵、宮園真美、中島富有子、秋永和之、内田荘平
2. 発表標題 看護学士課程における口腔ケア教育・研究の深化・発展を考える
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内藤 徹 (Naito Toru) (10244782)	福岡歯科大学・口腔歯学部・教授 (37114)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中島 富有子 (Nakashima Fuyuko) (80592980)	福岡看護大学・看護学部・教授 (37129)	
研究分担者	青木 久恵 (Aoki Hisae) (70526996)	福岡看護大学・看護学部・教授 (37129)	
研究分担者	窪田 恵子 (Kubota Keiko) (20309991)	福岡看護大学・看護学部・教授 (37129)	
研究分担者	吉田 理恵 (Yoshida Rie) (40807038)	福岡看護大学・看護学部・助教 (37129)	
研究分担者	原 やよい (Hara Yayoi) (40807096)	福岡看護大学・看護学部・助教 (37129)	
研究分担者	門司 真由美 (Monji Mayumi) (80527002)	福岡看護大学・看護学部・准教授 (37129)	
研究分担者	三好 麻紀 (Miyoshi Maki) (00595259)	福岡看護大学・看護学部・准教授 (37129)	
研究分担者	中西 真美子 (Nakanishi Mamiko) (50766821)	福岡看護大学・看護学部・講師 (37129)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------